

いと期待した。丸山さんは「外国に興味があり、ホームステイでしか味わえない日常生活を味わい、十日町とコソの架け橋となるよう頑張ります」と、笠原さんは「初の外国、先ず楽しみ、そして十日町の良さを(コソの人達)に伝えてきたい」と抱負を語っていた。

同交換留学は平成18年から開始、これまでの9

◎イブの夜、チャペルでクリスマス・ソングを11月24日夜7時、十日町教会。クリスマスキャンドルライトサービス、ロウソクの灯りの中でクリスマスのお話と讃美歌を一緒に歌う。また20日朝10時15分からはクリスマス礼拝、23日夜7時からクリスマスハンドベルコンサートも行われる。問合せは0752-20608へ。



ミオンの温泉で1年間育ったトラフグ

シーズンに入り、今月から販売を始めた。○：温泉とらふぐは(株)エヌプラス(杉谷清之社長)が市内宮中の温泉施設・ミオンなかさとの遊休施設で養殖している。今シーズンは初めて稚魚から丸1年かけて育てた初の「純十日町産」。昨年は中間魚を8月から育てていた。

○：昨年12月に仕入れた体長5センチ、2歳の稚魚

て販売したい考え。○：温泉とらふぐを扱う共販会もスタート時の24店から33店に増えた。同社事務局の山崎喜久一郎さん(57)は「1年間ミオンの温泉水で育てたとらふぐ。是非とも味わってほしい」と呼び掛けていた。

◎絵師「古澤一平」作品展 11月22日～27日、十日町情報館。

「蘭燃後援会」が発足したのは2011年、ソロになって7年目の夏でした。さすが暑い8月だったのを昨日の事のように思い出します。

歌手として活動を始めて18年目、後援会長春日寛先生を中心に事務局の根津万寿夫さん、発起人会の皆様と後援会発起ミーティングをしました。そして第一回目「ダイナーショー」をすることとなり、とても嬉しく光栄に思うと同時に、今までなかったプレッシャーに必死になっている間に、第一回目「ダイナーショー」が開催。始まりから終わるまで自分がどこにいるのかわからなくなってしまうほど緊張しっぱなしでした。この時の感覚は今でも思い出します。

同じ気持ちになり心臓が張り裂けるくらいドキドキしてしまいます。この夢のような「ダイナーショー」当日を過ごさめ戻すことが出来ませんでした。この「ダイナーショー」は、全ての感謝の気持ちでいっぱいです。時々自分の性格を呪いたくありませんが、この「ダイナーショー」ならではの不思議な充実感、会場での一人一人のエネルギーが一体となったひとときをシェア出来る嬉しさに幸せを感じ、これまでのプレッシャーがふと消え会場の温かい空気に包まれながら無事に終了することが出来ました。

進んでいるようです。今年5年目ということもあってか、さびたキリッとした気持ちを締めたい年でもありました。歌うということは体が楽器で、この体(楽器)を使いこなさなければなりません。20代30代はパワーや勢いでどうにかなっていたものも、もう嘘がつかない体になっていきます。根本的な身体作りがとても大切だということを感じてきました。

蘭燃「節目と今後の決意」

第5回後援会ダイナーショーを開催して



「ダイナーショー」用のご案内のお手紙を作っている時から、今年も皆様来てくださるのかな? ステージの構成は今年はどうしよう? 衣装は... ドキドキ... ドキドキ...。今振り返ると、毎年「今年以上は去年以上」ドキドキしているなあ」と思いながら、

蘭燃の応援、今後ともどうぞよろしくお願致します。

※らんねん 十日町市出身の歌手・今年10月13日、東京ベイコート倶楽部で「ダイナーショー」を開催した(本紙11月18日号で紹介)。

亀岡友香&ザ・ボイスズ・オブ・ジャパンのXマスコスプレナイトにOBとして出演する。22日19時、東京文化会館。

「蘭燃後援会」が発足したのは2011年、ソロになって7年目の夏でした。さすが暑い8月だったのを昨日の事のように思い出します。

歌手として活動を始めて18年目、後援会長春日寛先生を中心に事務局の根津万寿夫さん、発起人会の皆様と後援会発起ミーティングをしました。そして第一回目「ダイナーショー」をすることとなり、とても嬉しく光栄に思うと同時に、今までなかったプレッシャーに必死になっている間に、第一回目「ダイナーショー」が開催。始まりから終わるまで自分がどこにいるのかわからなくなってしまうほど緊張しっぱなしでした。この時の感覚は今でも思い出します。

進んでいるようです。今年5年目ということもあってか、さびたキリッとした気持ちを締めたい年でもありました。歌うということは体が楽器で、この体(楽器)を使いこなさなければなりません。20代30代はパワーや勢いでどうにかなっていたものも、もう嘘がつかない体になっていきます。根本的な身体作りがとても大切だということを感じてきました。

進んでいるようです。今年5年目ということもあってか、さびたキリッとした気持ちを締めたい年でもありました。歌うということは体が楽器で、この体(楽器)を使いこなさなければなりません。20代30代はパワーや勢いでどうにかなっていたものも、もう嘘がつかない体になっていきます。根本的な身体作りがとても大切だということを感じてきました。